

2026 海員春闘 全国各地で現場集会を開催

組合員の意見を集約 海でつながる仲間の力!未来を動かす海員春闘

2026年の海員春闘（労働協約改定）は、要求書を策定するにあたり、1月6日から2月16日までの大衆討議期間中、全国各地の現場組合員の意見集約を行うため、訪船や集会を実施し、外航・内航・沿海・港湾・水産それぞれの部門の意見をまとめ、現場と執行部門の意思疎通・共通認識を図った。また、現場組合員の意見集約は、2月17日に開催された第81年度外航部委員会、水産部委員会、国内部委員会それぞれの委員会で論議され、各部門での労働協約改定闘争方針が承認された。関東地方支部管内の各支部（新潟支部・三崎支部・静岡支部）の労働協約改定要求案に対する主な意見・要望は次の通り。

静岡支部=主な意見・要望

静岡支部は、大衆討議期間中、訪船や集会で現場組合員の意見集約を図り、内航部門では▽船員後継者確保のためにも、昨年度に引き続き基本給の大幅な改善を実施し、船員職業の魅力向上となるようにしてほしい▽ベースアップはもちろんであるが、年間臨時手当も引き上げてほしい▽宿泊費について、既に現行も協約に定める金額を超える場合には実費精算されている会社もあるが、実費支給を明記することに異論はない一などの声が多かった。

旅客船部門では▽新たな人材の確保が困難となっている。後継者を確保するため、人材を呼び寄せる魅力ある労働条件の構築が必要一との意見が多かった。

港湾部門では▽タグボートを含め、港湾部門は他部門に比べ、ベースアップが少ないと感じているため、大幅なベースアップを期待する一との声が多かった。このほか、水産部門では、総じて物価高騰に負けない生活給としての賃金アップの声が多かった。

「海員だより」